



正月の玄関に門松のお札

小浜町で今年の正月から実物の門松に替わり、「門松のお札」が玄関に飾られました。

小浜町ではこれまで正月に門松を飾るのが風習でしたが、一人暮らしの高齢者が多くなり、松を切りに行くのが難しくなってきたことから、町内会が神社でお祓いをうけたお札を準備し、町民へ配布しました。



巣箱づくりで里山の自然を学ぼう

白木町で12月22日、子供会による鳥の巣箱づくりが行われ、町内子どもたちが自然について学びました。

参加した10人の子どもたちは地域の大人に指導してもらいながら、慣れない作業も楽しく進めていました。

出来上がった巣箱を里山に設置した子どもたちは、「どんな鳥が住むのかな」ととても楽しみな様子でした。



伊良子清白の業績に光を

鳥羽郷土史会（濱口巖会長）は1月12日、鳥羽ゆかりの詩人・伊良子清白をしのぶ、木斛忌（追悼忌）を開きました。

清白は医師として23年間を小浜町で過ごし、診療所兼自宅の庭に初夏になると咲く、木斛の清廉で小さな白い花をめでていたことから、鳥羽郷土史会が清白の命日（1月10日）を木斛忌と決めました。会場となった伊良子清白の家（鳥羽一丁目）には、鳥羽郷土史会の会員や文学ファンなど約70人が集まり、出席した清白の孫・伊良子序^{はじめ}さん（明石市在住）は、「鳥羽で木斛忌を開いてもらい、感謝無量です」と語ってくれました。



山の神に安全を祈願

堅神町で1月7日、江戸時代から続くとされる山の神の神事が行われました。

女の神とされる山の神は、堅神町山間の男岩・女岩に祭られており、神事は男性のみで執り行うしきたりとなっています。堅神神社の江崎宮司と堅神町内会（近藤巧功会長）役員の男性約10人は、夜明け前の身を切るような冷たい空気の中、一年間の山での作業の安全と五穀豊穡を山の神に祈願しました。

堅神町では、この神事を終えることで、はじめて山に入ることが許されると伝えられています。